

為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみ合いが継続か

[4月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月30日～4月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	160.14	160.46(30)	158.28(1)	159.60	-0.71
ユーロ・ドル	1.1514	1.1627(1)	1.1443(30)	1.1542	+0.0033

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	53,123.49	-249.58	日本10年債利回り	2.391	+0.003
ダウ平均株価	46,504.67	+1338.03	米10年債利回り	4.319	-0.093

<来週の主要経済統計等>

- 6日 日銀支店長会議、地域経済報告 (さくらレポート)
米3月ISM非製造業景況指数
※イースターマンデーで欧州は休場
- 7日 日本2月勤労者世帯家計調査
日本2月景気動向指数速報値
米2月耐久財受注速報値
カナダ3月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本2月経常収支
NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利
独2月製造業受注指数
スイス3月雇用統計
ユーロ圏2月小売売上高、ユーロ圏2月生産者物価指数
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (3月17～18日)
- 9日 独2月貿易収支
独2月鉱工業生産指数
米2月個人所得・支出、米2月個人消費支出 (PCE) 物価指数
米第4四半期GDP確報値、米新規失業保険申請件数
- 10日 中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数
独3月消費者物価指数
カナダ3月雇用統計
米3月消費者物価指数
米2月製造業受注
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】中東情勢の不透明感は継続し、ドルの下値を支える展開となりそう。一方で、ドル円が160円を超える水準では、当局によるドル売り・円買い介入が警戒され、上値を抑えられやすい状況が続く見通し。こうした中、ドル円は上値こそ重くなりやすいものの、下値も限定的で底堅く、高値圏でのみ合いが継続するとした。

【ドル円はトランプ発言や中東関連のニュースで右往左往】

3月30日のドル円は反落。週明け、フーシ派のミサイル攻撃を受けた「有事のドル買い」により、一時160.46付近と高値を更新した。これに対し、三村財務官が「断固たる措置が必要になる」と、就任以来最も強い表現で円安を牽制すると、市場では介入への警戒感が急速に高まり159.80台へ反落。午後は、トランプ大統領のイラン停戦合意に向けた前向きな発言を受けてドル高が一服し、その後も円買いの流れが継続したことで、ドル円は159.50を割り込む水準まで下落した。

31日に東京市場は、トランプ発言に反応して朝方はドル買いが先行し、ドル円は159.97レベルと160円の大台に迫った。しかし「トランプ大統領が軍事作戦を終了させる用意がある」との報道が伝わると、ドル安・円安が進行。ドル円は159.49付近まで下落した。その後、NY市場では、月末・期末に伴うドルロングの解消（巻き戻し）が強まり、ドル円は158円台へ下落。トランプ大統領の「対イラン作戦終結」の意向が報じられ、有事のドル買いが後退した。

4月1日に東京市場でドル円は下落。トランプ発言を受けた撤収期待から一時158.45までドル安・円高が進んだ。その後、UAEの軍事関与検討の報道で159.01まで買い戻されるなど、イラン情勢を巡る報道に一喜一憂する不安定な動きが続いた。その後エネルギー高への根強い警戒感から終盤はドルが買い戻された。ドル円も159円近くまで反発。

2日午前10時にトランプ大統領が対イラン軍事作戦について演説を行った。「主要な戦略目標はほぼ達成」「イランでの任務の完了が目前に迫っている」など早期終結を示唆する発言が見られた一方、「今後2-3週間、これまで以上に激しい攻撃を加える。彼らを本来ふさわしい場所、石器時代へ戻してやる」、合意に至らない場合は「イラン国内のすべての発電所や石油輸出拠点を同時に、かつ徹底的に叩く」など攻撃激化の方針も示した。市場では今回の演説が紛争終結に向けた前向きなものになるとの期待があっただけに、演説を受けてリスク警戒感が一気に強まった。有事のドル買いとなり、ドル円は159円台後半まで上昇した。

【トランプ発言に振り回される展開か】

4月6日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、6日に米3月ISM非製造業景況指数、7日に日本2月勤労者世帯家計調査、日本2月景気動向指数速報値、米2月耐久財受注速報値、8日に日本2月経常収支、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（3月17～18日）、9日に米2月個人所得・支出、米2月個人消費支出（PCE）物価指数、米第4四半期GDP確報値、米新規失業保険申請件数、10日に米3月消費者物価指数、米2月製造業受注、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

引き続き米国とイランを巡る中東情勢、トランプ米大統領の発言などに左右される展開が続くとみられる。経済指標では、6日の米3月ISM非製造業景況指数、10日の米3月消費者物価指数が注目される。米3月ISM非製造業景況指数の事前予想は54.9となっており、前回の56.1から鈍化する見通し。

米消費者物価指数の事前予想は前月比+1.0%（前回+0.3%）、前年比+3.4%（前回+2.4%）、コアは前月比+0.3%（前回+0.2%）、前年比+2.7%（前回+2.5%）となっている。ホルムズ海峡封鎖による原油価格の高騰がインフレ加速につながる可能性が高まっている。予想から上振れするようならドル高が進むこととなりそうだ。

8日に発表される米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（3月17～18日開催分）も注目される。3月のFOMCでは政策金利は据え置きとなり、同時に発表されたインフレ見通しやパウエル議長の記者会見では、インフレ再燃への警戒感が示された。参加者の多くがインフレの上振れリスクを指摘しており、これに関してどういった議論があったのかなどが注目される。

ホルムズ海峡閉鎖による原油高やそれに伴うインフレ懸念から、ドル買いの動きは続きやすくとみられる。一方で、ドル円は160円超ではドル売り円買い介入が警戒されて上値を抑えられやすい展開が見込まれる。こうした中、ドル円は高値圏でのみみ合いが継続することとなりそうだ。目先の予想レンジは157.00～161.00円。

※米政府機関の閉鎖と再開に伴い、米経済指標の発表日に変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルもポンドドルもレンジ相場が継続か】

ユーロドルは1.14台から1.16台の間で、上下に振幅する展開となった。トランプ米大統領の2日の演説により、中東情勢の不透明感は継続して、有事のドル買いの

動きからユーロドルの上値は抑えられやすいとみられる。一方で、原油価格の高止まりによるインフレ警戒から、欧州中央銀行（ECB）による年内の利上げ回数見通しは2.8回程度となっている。これはユーロドルの下値を支える展開となりそう。

有事のドル買いがユーロドルの下押し圧力となる。一方で、インフレ警戒のユーロ買いがユーロドルを支える中、ユーロドルはレンジ相場となって明確な方向感の出にくい展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1350～1.1700ドル。

ポンドドルはドル買いの動きなどから3月31日には1.31台半ばまで下落したものの、翌日には1.33台半ばまで戻した。ただ、買いが続かず翌日には下落するなど、一方向の動きが続きにくくなっている。

有事のドル買いに上値を抑えられやすい。一方で、原油高に伴うインフレ警戒から英中銀（BOE）による年内の利上げ回数見通しは1.9回程度となっている。ドルの堅調さと利上げ観測が交錯する中、ポンドドルももみ合いの動きが続くとみられる。目先の予想レンジは1.3050～1.3400ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、7日にカナダ3月IVEY購買部協会指数、8日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、独2月製造業受注指数、スイス3月雇用統計、ユーロ圏2月小売売上高、ユーロ圏2月生産者物価指数、9日に独2月貿易収支、独2月鉱工業生産指数、10日に中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数、独3月消費者物価指数、カナダ3月雇用統計などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。